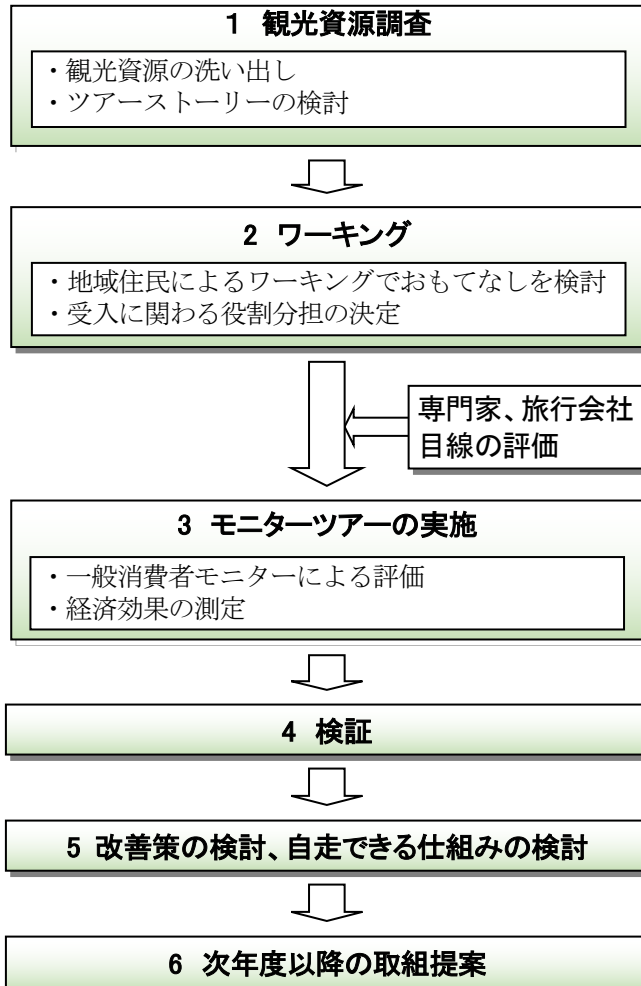


3. 検討の進め方



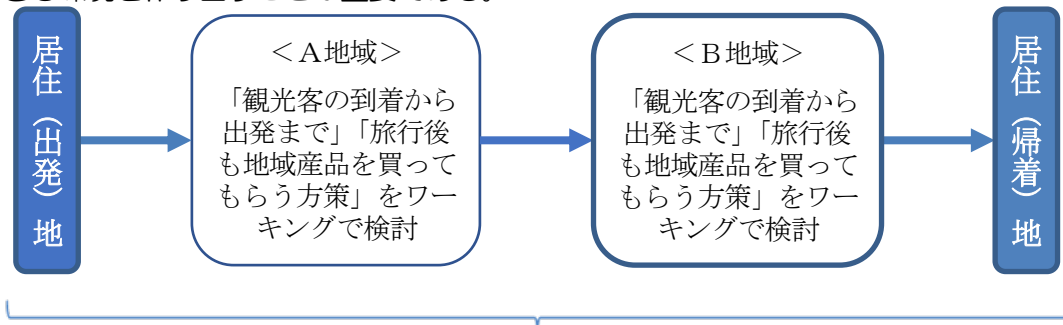
中山間地域にある資源は、その地域に住む住民が最もよく知っているはずである。しかしながら、地域住民にとって当たり前過ぎて、そのことに気づかないことも多い。

このようなことから、外部人材をファシリテーターとした地域住民によるワーキングで検討を行うことで、観光資源の洗い出しに繋がる。

また、受入に関する様々な検討も地域住民が中心となって検討し、当日も前面に立って受け入れを担当することで、観光客にとっては中山間地域の「人」の温かさが伝わり、地域住民にとっては観光客が喜ぶ姿を間近に見られることで、改めて地域に誇りを持つきっかけともなり、次年度以降自走可能で継続性のある体制づくりにつながる。



人的リソースが限られる中山間地域において、観光客への流通・販売、当日受入まで一手に担うのは困難である。このため、旅行会社等をうまく活用することで、役割分担を明確にし、中山間地域は受け入れのみに専念できる環境を作り出すことが重要である。



出発から帰着までは、旅行会社（主に団体旅行の場合）や観光客個人（主に個人旅行の場合）が好みや旅行目的に応じてアレンジする。

これにより、地域住民は地域内での対応に専念すればよく、旅行会社（観光客個人）は、地域の観光商品の組み合わせだけ考えればよく、双方にメリットが生まれる。